

友達って優しい

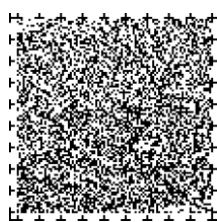
小五

わたしは二年生の時、「しはん病」という病気になり、歩けないくらい足が痛くて十日間くらい学校を休んでしまいました。体を動かすと血管が切れてしまうので、じっと静かにしていません。くてもはなりません。動かしてもいいことは、テレビのリモコンを指で押すことだけでした。わたしは毎日毎日泣いていました。でも、ある日、その涙が消えました。それはわたしのクラスの友達から、「がんばってね。」や「早く学校に来てね。」

などの温かいメッセージが届いたからです。何日かたつと、少し動いてもいいようになり、学校に行けるようになりました。

まだ通学路の全部は歩けないので、毎日お母さんに送り迎えをしてもらいました。わたしは病気のことを、クラスみんなに知ってもらうために、朝の会で話しました。

「お手紙ありがとう。うれしかったです。わたしの病気は、たくさん体を動かすと、おなか痛くなったり、足にぶつぶつができたりしてしまいます。だから、しばらくは、お母さんに送り迎えをしてもらい、体育は見学します。あとほかにも出来ないことがあるかもしれませんが、



よろしくお願いします。」

話を始めるとみんなしんげんに聞いてくれて、わたしの病気のことを分かってももらうことができました。わたしは、とてもうれしい気持ちになりました。

わたしはこの時初めて、友達の大切さが分かりました。この時のことをきっかけに、私も友達に優しくするよう心がけています。例えば、一年生の子が転んで泣いているのを見た時は、放っておくことができないので、「どうしたの？」と声をかけたり、転んだ子を保健室に連れていったりしています。

人に優しくすると自分もいい気持ちになります。少しでも多くの人を笑顔にできるようにしたいです。優しい気

持ちでみんながつながれば、きつと、もつと笑顔があふれる世界になると思います。

